

## 式 辞

ここ織部の地にも春の足音が聞こえ始め、日差しに温もりを感じる季節となりました。

本日ここに、雲南市長 石飛厚志 様をはじめ、多くのご来賓の皆さまをお迎えし、令和七年度 島根県立大東高等学校 卒業証書授与式 を挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

卒業生のご家族の皆さまには、この晴れの日を共にと、多数ご出席いただきました。お子様の逞しく成長された姿に、感慨も一入のことと思います。めでたく今日の卒業の日をお迎えになりましたこと、誠におめでとうございます。この三年間、本校での教育にお力添えをいただき、本当にありがとうございました。

さて、大東高等学校 第七十八期 となる六十三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。本校において、よき友に恵まれ、学業や部活動、学校行事にと、様々な活動に一生懸命に取り組み、充実した日々を過ごしてきたことは、今後の皆さんの人生の大切な基盤となるものと信じています。

私は、この一年を通して、「できることを増やすために挑戦しよう」と皆さんに言い続けてきました。四月の始業式に皆さんと初めてこの体育館で顔を合わせた時と比べ、先ほど担任の呼名に応じる皆さんの姿から、これまで様々な挑戦を経て、できることを増やしてきた自信と誇りを一層強く感じます

振り返ってみると、一学期は異常な暑さの中、高校最後の部活動に全力で取り組みました。県高校総体、野球夏の大会、各種コンクール大会などで三年間の積み重ねをすべて発揮し、チームの目標、個人の目標を目指して挑戦してくれました。二学期の織部祭では三年生として一・二年生をまとめてくれました。応援パフォーマンス、デコレーション、アラモードなど「創造する」ことの苦勞と楽しさを感じ、「協働する」ために人とつながり、人をまとめる経験をすることで、皆さんは一回り大きく成長したと思います。二学期の後半にかけては、進路決定に向けて苦しい日々が続いたことでしょうか。努力がなかなか数字に表れなかったり、早期の受験に向けて志望理由を何度も書き直したり、毎日のように面接練習をし、そのたびに課題が見つかり落ち込んだりと、決してすべてがうまくいったわけではなく、挫折を経験した人もいました。冬休み、そして一月二月も目指す進路実現に向けて寸暇を惜しんで学習に取り組んでいる仲間がいます。妥協せずより良い将来を目指して挑戦をしています。人生百年の時代となりました。皆さんはまだ五分の一も生きてはいません。これからAIなど新しい技術が一層進化し、どんな便利な生活となるのか、どんな楽しいことがあり、どんな出会いがあるのだろうか、ワクワクしませんか。まずは、高校という枠がなくなり、それぞれ新しい舞台へ進んでいきます。そこでは今よりももっと自由な世界が待っています。自由度が高まった分、選択する場面や挑戦する場面がたくさん出てきます。皆さんの可能性は大きく広がっているのです。一方で、今の社会は予測不能であり、不確実で複雑化しています。価値観が多様化し、こうすればよい人生を歩めるというルールが敷かれているのではなく、正解が存在しないといわれています。これからの人生の中で、幾多の困難に直面するこ

ともあるでしょう。個人で対処できることもあります。世界で続く国際紛争、自国第一主義による対立と混乱、地球規模の温暖化など個人ではどうすることもできないものもあります。しかし、未来を創る当事者として、非力ですが声を上げ、一歩でも、半歩でも前進することをあきらめないでほしいと思います。

目の前の課題について、私たちは他者と対話し、お互いの思いをすり合わせて納得する解を見つけ出すことを求められています。他者と対話する際に自分自身の軸が必要となってくるのです。軸とは何を大切にしたいのか、どんな人生を歩みたいのか、「その人らしさ」のことであろうと思います。文筆家の松浦弥太郎さんは、「自分がしたいこと、しなければならぬこと、なりたい姿を求めるときに決して焦ってはいけません。すべてのことは相応の必要な時間がある。いつも待てる自分であることを大切に守っていきましょう。」と言っています。「タイパ」と言われるように効率を求める傾向が強くなってきましたが、時間をかけて自分自身を見つめ、自分で考えることで、「あなたらしさ」が作られると思います。これからも、人との出会いや経験を通して「あなたらしさ」を磨いていってほしいと思います。

詩人、高村光太郎の作品「道程」の一節を紹介します。

どこかに通じている大道（だいどう）を、

僕は歩いているのじゃない

僕の前に道はない

僕の後ろに道はできる

道は踏みしだいてきた足跡だ

だから、道の最端にいつでも僕は立っている

この卒業とともに、それぞれ別々の方向に進んでいきます。こうすればよいという正解がない社会ですので、あなた自身が選び、迷いながらも前進していくとそこに道ができるということです。たくさん挑戦をして自信と誇りをもって幸せな人生を切り拓いていってほしいものと期待しています。

皆さんはこれまで家族だけでなく、地域の大人から大切にされ、豊かな高校生活を過ごすことができました。これからは、大東高校を、そしてこの地域を「応援する人」になってほしいと願っています。「絆」という字は、糸偏に半分と書きます。絆の糸の半分以上を皆さんが持ち、大東高校を卒業しても卒業生八雲会員として高校や地域とのつながりを持ち続けてくれることを願っています。

結びに卒業生六十三名の前途を祝し、さらなる挑戦と成長を祈念して、式辞といたします。

令和八年三月一日

島根県立大東高等学校 校長 平井 孝